

崔瞿、老聃に問いて曰く、天下を治めずんば、安くんぞ人の心を
臧くせんと。老聃曰く、汝、慎みて人の心を撻るなかれ。人の心
は、排うれば下りて進おれば上り、上下して囚殺す。淖約にして
剛強を柔らげ、廉巖にして彫琢す。其の熱するや焦火、其の寒な
るや凝氷、其の疾きや俛仰の間にして再び四海の外を撫う。其の
居るや静かにして淵の而く、其の動くや梟たりて天の而し。儂驕し
て係ぐべからざる者は、其れ唯だ人の心かと。

【大体の意味内容】

崔瞿が老聃にたずねて言った。「天下を治めないのならば、どうやって人の心を善くしよ
うとこののですか。」老聃は答えた、「お前、慎んで、人の心をしばらくとしてはならな
いよ。人の心は、押さえつけられれば沈み、おだてればつけあがり、軽薄に浮き沈みを繰り返
してじきに衰えてゆくものだ。しかしそんな心も、物ごとをしなやかに包むように働け
ば剛強なるものをも柔らげる。また時には廉だった鋭さを以て物事を彫り刻んでいった
りもする。熱すれば火の様に燃え盛り、冷えると氷の様に凝り固まる。その疾いこと、俯
いて大地に拝し、仰ぎて天を敬うわずかな間に、四つの大洋の外まで二めぐりもしてし
まう。動かずに居れば静かなること深淵の如く、動けば速やかに遠く隔てること天の如し。
勢いよく駆け回ってつなぎとめることができないもの、それこそが人の心であろう。(善
くしようなどと考えて、しばらくつけてはならないものだ)。

